

聖書の中のたとえ話

新約聖書のイエス様のたとえ話の中に、

「愚かな金持ち」と呼ばれているものがあります。



ある金持ちの畑が豊作で、作物をたくわえておく場所がなくなっていました。そこで彼は、前より大きい倉を建て、そこに作物や財産をしまい込み、心の中で「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しみ」と言いました。

ところが、この金持ちに向かって、神は次のように言われたのです。「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか」と。

彼は真面目に働き努力と知恵をもちいて作物を育て蓄えたでしょうに、なぜ神様は、彼を愚かと言われたのでしょうか。

彼は次の思い違いをしていました。

- ①たましいを満たすのは飲み食いなどの楽しみではないこと。
- ②たましいは神様から与えられ、取り去られること。
- ③いの中の所有者は自分ではないこと。

ですから、もし、これらのことを思い違いをしているようなら、私たちも「愚か者」なのです。神(創造主)は、私たちがこの金持ちのように、神様を無視して生きることを望んでおられません。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」
(マタイの福音書16章20節)

聖書は、まことのいのち(永遠のいのち)があることを示しています。是非、聖書のことばをお聞きになるために、集会にいらしてください。